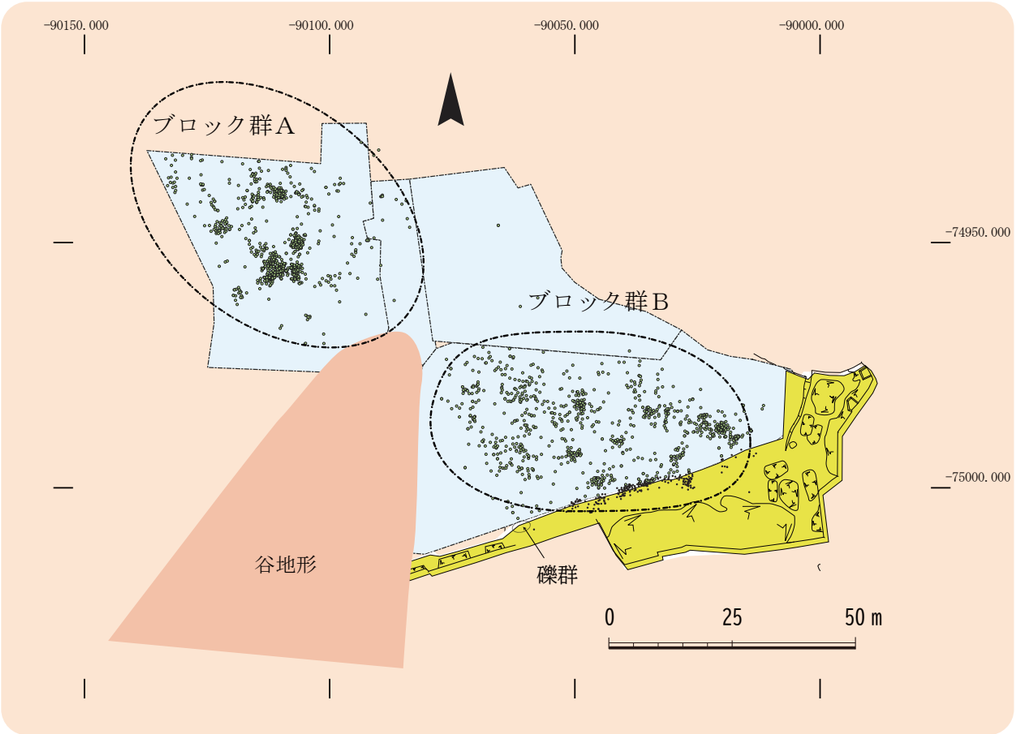

図３　２～６次調査出土石器分布状況

まとめ

これまでの発掘調査の結果、谷を挟んで傾斜の緩い南向きの斜面にＡ、Ｂ２か所のブロック群が残されていることがわかりました。少なくとも２回以上の居住痕跡と考えられますが、Ｂ群では複数の空閑地があり、ブロック群を細分することが可能であることから、もっと多くの回数の居住痕跡の可能性も考えられます。当時、狩りのため遊動していた旧石器人たちが複数回同じ場所に訪れたのは、遺跡が谷の狭隘部を見下ろす台地上にあり、多くの獲物を狩ることのできる重要な場所であったからと考えられます。

旧石器時代遺跡の少ない近畿地方北部地域において今回の発掘成果は、当時の暮らしを知る上で貴重な成果であると位置づけられます。

姶良丹沢火山灰（あいらたんざわかざんばい）とは？

鹿児島湾にある約３万年前の姶良カルデラの噴火によって飛来した火山灰です。噴出量が多かったため、日本列島の広い地域で見つかっています。火山灰は噴出年代を示すことから、離れた地域の遺跡を対比するための基準層となります。令和２年度の調査では、10cmほどの厚みでみつかりました。

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
http//www.kyotofu-maibun.or.jp

WEB　X（旧 Twitter）　Facebook

京埋セ現地説明会資料 24-２
令和６年８月３日（土）

稚児野（ちごの）遺跡　第６次調査

調査場所　京都府福知山市夜久野町井田
調査期間　令和６年５月８日～令和６年８月下旬予定
調査面積　1,300 ㎡

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

はじめに

稚児野遺跡は、牧川に大きく張り出した標高約 104mの台地上に位置する旧石器時代から平安時代の遺跡です。

今回の調査は、国土交通省福知山河川国道事務所の依頼を受け、国道９号の改良工事に伴い実施しています。

令和２～３・５年度に発掘調査をした結果、約３万年前におきた鹿児島湾での噴火によって飛来した姶良丹沢火山灰層よりも古い地層から総数 1,400 点以上の石器が出土し、京都府では石器の出土点数が最も多い後期旧石器時代の遺跡と分かりました。

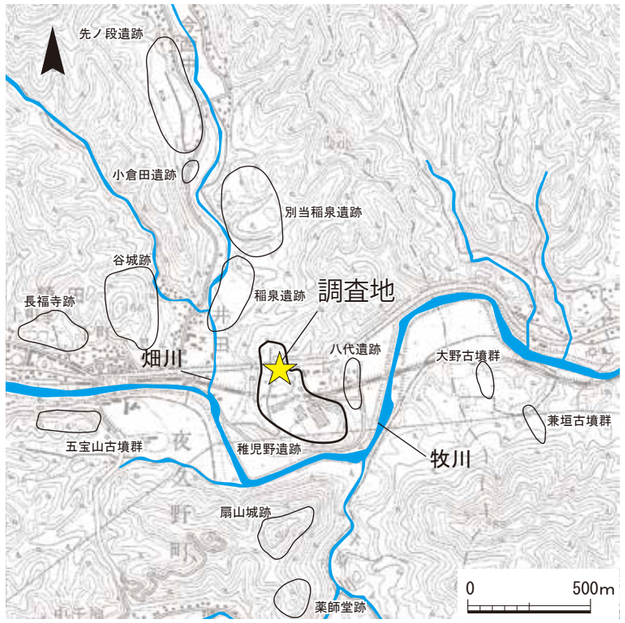

図１　調査地位置図及び周辺遺跡分布図
（国土地理院　福知山西部 1/25,000）

調査概要

石器が集中して出土する範囲をブロックと呼びます。旧石器人の石器製作などの活動を示す遺構で、ブロックは連なって群をなすことが知られており、ブロック群の大きさは当時のムラの規模などを示していると考えられています。稚児野遺跡では、谷地形を挟んで東西２つのブロック群に分かれることがわかりました。今年度の調査では、令和２年度調査で検出したブロック群の続きが見つかりました。今年度発掘調査地の南部及び東部では、後世の建物造成などの影響で、石器の分布状況を正確には復元できませんが、残されている部分から類推するとブロック群の南限を確認したと考えられます。今回の調査で注目されるものとして礫群があります。礫群は木の葉などで被覆した食材の下や上に焼けた礫を置いて加熱調理をした跡と考えられています。礫群はブロックから離れており、調理作業や石器製作作業など場所によって用途がわかれていたものと考えられます。

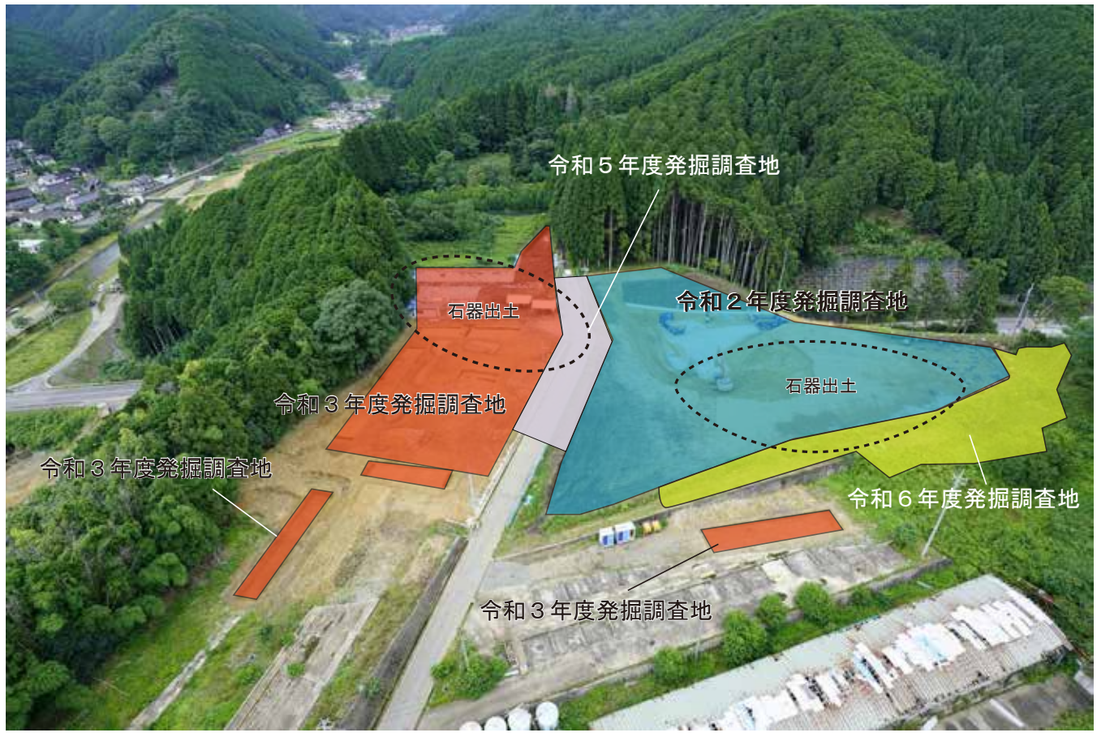

写真１　稚児野遺跡調査地全景（南から）

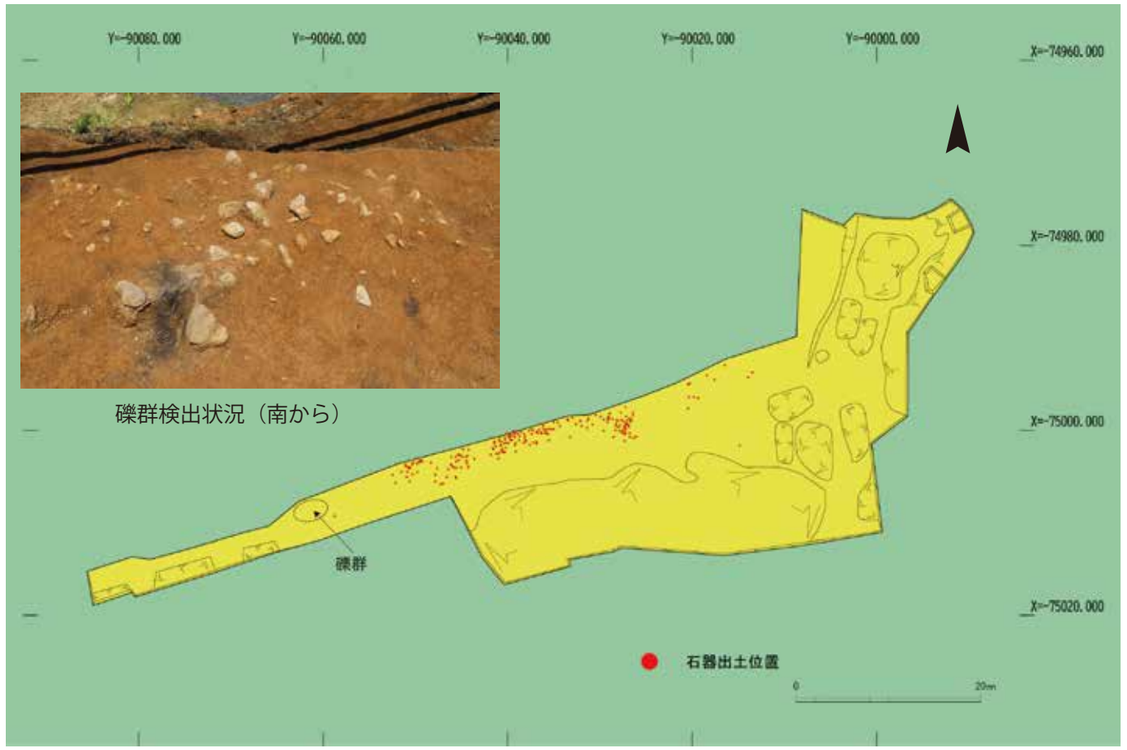

図２　令和６年度発掘調査地石器出土状況

石器について

石器には槍先として使用されたナイフ形石器（１・２）、用途が不明の２次加工の有る剥片（３・４）、剥片をはがした石核（５）、木の伐採などに用いた刃部磨製石斧（６）などがあります。稚児野遺跡２～５次調査で出土した石器石材にはサヌカイト、チャート、黒曜石、シルト岩などが用いられていましたが、今回の調査地ではサヌカイト、シルト岩にほぼ限られています。シルト岩は地元で入手できますが、サヌカイトは奈良県と大阪府の境にある二上山周辺から運ばれてきたものです。

これらの石器は後期旧石器時代前半に特徴的な石器で、約 36,000 年前の石器と考えられます。

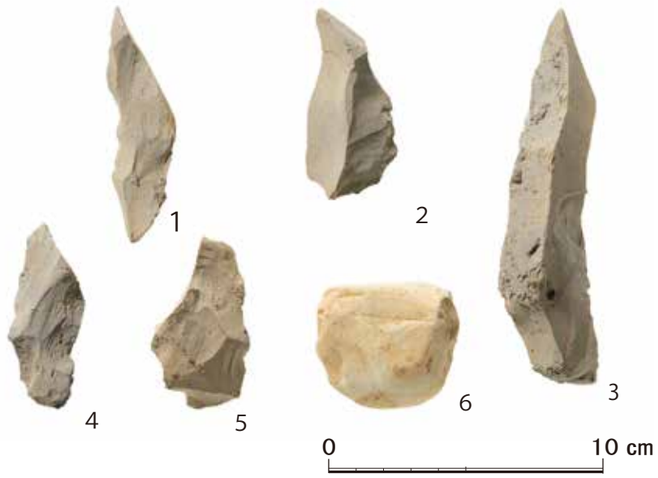

写真２　令和６年度出土石器
ナイフ形石器（１・２）、２次加工の有る剥片（３・４）、石核（５）、刃部磨製石斧（６）　石材：サヌカイト（１～５）、シルト岩（６）